

企業経営理論

問題

第1問

ボストン・コンサルティング・グループ（BCG）が開発した「プロダクト・ポートフォリオ・マネジメント」（以下「PPM」という）と、その分析ツールである「プロダクト・ポートフォリオ・マトリックス（または「成長－シェア・マトリックス）」に関する記述として、最も適切なものはどれか。

ア プロダクト・ポートフォリオ・マネジメントでは、業界（市場）の成長率と自社事業の相対的市場シェアを基準として事業を分類する。業界（市場）の成長率の算出においては、ハーフィンダール・ハーシュマン指数（HHI）を用いるのが一般的である。

イ プロダクト・ポートフォリオ・マネジメントは、業界の成長率が高まり、累積生産量が増加することでキャッシュインが増加するという製品ライフサイクル理論に基づいている。

ウ 市場の成長率が低い「問題児」事業の戦略検討においては、市場が停滞する中でも高収益をもたらし、残存者利益を得られる可能性のある事業を見極めることが大切である。

エ 相対的市場シェアが低い「負け犬」事業は、すでに高いシェアを誇る「花形」事業と比べて事業拡大の余地は大きく、投資収益率は高い傾向にある。

オ プロダクト・ポートフォリオ・マネジメントの前提には経験曲線効果の考え方があり、コスト・リーダーシップのみを競争手段としている。